

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	2072100502		
法人名	社会福祉法人御代田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームみよた		
所在地	長野県北佐久郡御代田町御代田1833-1 (電話) 0267-32-1130		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(平成20年1月7日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護 1	1	要介護 2	1
要介護 3	3	要介護 4	1
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 86.2 歳	最低 80 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・井田医院 ・宮下内科循環器科クリニック ・林歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

御代田町社会福祉協議会が母体のホームである。開設については住民よりの強い要望があり、施設でない認知症の方々の住まいを作りたいという考えのもとに運営に到った。入居者の世代の家族構成は6~8人位が普通で、ホーム入居者の定員も6名にこだわりを持ち決められた。日中の支援体制も入居者3人に1人以上の職員配置としている。ホーム近隣は中仙道の面影を残す宿場町であったことを踏まえ、建物も工夫して作られており、周囲にマッチしている。目の前のことだけでなく先を見て設立されたホームは、ハード面でもソフト面でも入居者にやさしい家となっている。時間がゆっくりと流れていて、入居者と職員が一体となった雰囲気生活している。外部よりお客さんが見えても、輪の中に入り、一緒に会話を楽しんでいる。「地域の見直しにも通じながら、地域に根ざしていききたい」という目標にそって、住民と入居者及び職員がごくごく自然な形でお互いを支えあう関係が築かれている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護教室という大がかりなことはしていないが、地域の方々が気軽に相談に立ち寄っている。憩いの場としても使われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 実施された評価結果も職員に報告され、検討している。職員全員が自己評価を行い、全員で各々の評価を検討し、ホームとしてまとめている。評価に参加することで「グループホームの方向性」を再認識している。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 最初の会議では、「運営推進会議開催」の理由を理解していただくことから始めた。以後は、入居者との昼食会・ホーム主催の「夏祭り」・防災について・外部評価の結果についてなどの議題を出し、理解・協力していただいている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) グループホーム便り等にも「家族の意見を聞かせてください」と載せている。アンケートを作成して家族より意見をいただいている。1件の意見・要望であっても全体の入居者の意見として受けとめ、職員の会議で話し合っている。入居者にとって居心地が良すぎることで、かえって家族が安心してしまい、繋がりが希薄にならないように更に交流を深めていただきたい。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) イベントだけのつながりでなく、毎日の生活も地域の方々と密接で共に送っている。隣組の会議にも入居者が管理者や職員と一緒に参加している。そのことにより地域の方々も入居者への理解が深まり、自然な形でお互いの交流が出来るようになった。現代の核家族ではなく、大所帯の家に近所の方々が遊びに来るような関係が出来ている。野菜などの差し入れが沢山あり、近隣の方への感謝の念も深いように感じた。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年4月、町社協により開設された。「地域と共に・・・」という理念が開設当初より唱えられており、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう柔軟な支援がされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の異動時には「グループホームの理念」を必ず伝え、理解につなげるようにしている。ケース会議では理念に基づくサービスが提供されているか、振り返り話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「いきいきサロン」、「夏祭り」、「ふれあいの会」、隣組の寄り合い等、ホーム主催・地域主催の数多くの行事があり、地域の方々との交流が活発に図られている。近所の方々がホームへ日常的に遊びに来ており、ホームから地域への働きかけがごく普通に、自然に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価による結果は職員にも伝えられサービスの向上に活用されている。玄関にも前回評価結果が掲示されている。今回も全職員参加で行った。自己評価調査票が事前に配布され、後日、ケース会議で話し合っている。		

グループホームみよた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ3～4ヶ月に1回会議が開かれている。1回目の推進会議では「推進会議の説明」をして委員の方々の理解を得た。その都度、議題が設けられ実施されている。入居者との昼食会、夏祭り、防災についての協力依頼等、話し合いがされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当部署とホームの空き状態、入居者の介護状態などの情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	グループホーム便りを年間8回ぐらい発行している。行事や職員の異動の連絡もしている。小遣いの預かり分については領収書を添付した出納帳が作成されている。家族が訪問された時に見てもらい、確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	同じ法人運営の宅老所とグループホームが行っている学習会で入居者家族に「アンケート」をお願いし、意見等を頂く取り組みをしている。要望としていただいた意見は職員の会議で話し合い、共有の問題点として話合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしているが、やむを得ない場合には入居者と新しい職員がなれるまでなじみの職員が常にサポートし、入居者と早くなれるような環境作りをしている。		

グループホームみよた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務室のボードに研修のプリントが張り出されている。希望する研修がある時は管理者に願い出て受講している。職員が勉強しやすい環境になっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのネットワークに参加しており、地域の7ヶ所のグループホームによる「相互交流」が実施されている。管理者1名・職員1名で課題を設定し参加し、報告書を作成して他の職員に回覧している。他のホームを訪問することは、自分達のホームの現状や長所などを改めて振り返る機会となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者全員が地元の方である。宅老所やデイサービス利用から入居された方が大半で、入居者同士顔なじみの関係が出来ている。施設・病院より移行された方は管理者・職員が何回も面会をし、顔なじみの関係づくりを経て、入居に到っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員は対等な関係で、生活の支援をするという考えのもとに毎日生活している。料理のことやことわざ等、入居者から教えてもらうことが多い。		

グループホームみよた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者一人ひとりの違いや生活暦を十分把握している。家族からの聞き取り調査での暮らし方や毎日の生活の中で本人から伝えられることなどを記録に残している。入居者の思いをくみ取り、日ごろのケアに活かす努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員で話し合い、利用者本位のケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月ごと、あるいは入居者家族の要望や本人の状態が変わったときには見直しを行っている。	○	見直しは変化や新たな要望などがなくても、介護計画の遂行状況確認などの意味も含めて、毎月行って欲しい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院や美容院への付き添いを家族の都合に合わせて随時行っている。以前から利用していた美容院に行くことで昔話を楽しむ等、自宅に居るような環境を継続・維持している。		

グループホームみよた


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として受診の同伴は家族にお願いしているが、都合が悪い時は職員が付き添っている。往診してくれる医院もあり、緊急時などへの対応はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、家族との話し合いの場を設けている。開設当初からの入居者は年齢的な衰えなどあるが、緩やかな変化に留まっている。入居者の重度化に向けて看取りの事例勉強会に参加することを検討している。	○	職員の入居者に対する思い入れは家族と同じように深いものと思われる。それ故に、重度化・終末期に向けた対応について勉強会・研修などを通し、職員間で意思統一されることを希望する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修生受け入れ時には「守秘義務」を徹底して話している。また、地域の方々が立ち寄っていただいていることを家族に伝え理解していただくとともに、契約時にも説明している。職員は日常生活において、入居者に対し、「目上の方」という接し方をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合った生活を提供している。朝風呂を利用していただく等、本人の気持ちを尊重し、個別性のある対応がされている。職員のゆっくりとした支援が入居者に心地よく感じ取られていることが窺えた。		

グループホームみよた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イスに座ったままやキッチンの中に入っての手伝いと様々だが、協力しながら食事の用意をしている。食べている時もゆっくりと時間に追われずに会話をする方や聞いてニコニコしている方等、和やかな明るい表情である。献立も入居者の希望を取り入れながら作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる。一人ひとりの希望で支援が出来るように体制が出来ている。車椅子の方も入れるように工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	春は日帰り、秋は一泊と小旅行が毎年計画され、行われている。入居者の要望で時々外食にも出掛けている。近所の方がお茶のみに来たり、入居者が出かけていく等、近所付き合いがごく自然に行われており、日々の楽しみともなっている。月一回のフラワーアレンジメントには女性入居者全員が参加している		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの犬の散歩が午前と午後の2回、日課になっている。天気の悪い日などは買出しに行き、スーパーで買い物をすることで外出の機会を作っている。入居者の希望で外食したり、ドライブに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。来訪する方は気軽に声をかけ、皆がいる居間に入ってきている。職員は鍵をかけないことの重要性を理解している。		

グループホームみよた

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練として避難誘導訓練を実施している。地区の消防署や消防団による消火訓練も毎年行っている。緊急の連絡網もあり、ホーム近くに住む職員が連絡があれば直ぐに駆けつけられる体制ができています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌には排泄の記録をしている。チェック表が個別にあり、排泄パターンをおおまかに把握している。個別に食事の摂取状況を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方々よりの寄贈品などで宿場町の風合いを感じさせる飾りつけがされている。月1回のフラワーアレンジメントの作品が各居室・玄関などに飾られている。車椅子対応のトイレ・風呂場もあり、様々な工夫がされている。廊下・居間は床暖房とパネルヒーターで適温に調整されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用されていたタンス・茶箆筒・仏壇・テレビなど多数持ち込まれ、個性的な部屋作りがされている。押入れが広く作られており、毎日布団を上げ下ろしをされている方もいる。換気・空気清浄機が各居室に取り付けられている。		

※  は、重点項目。